

# 令和4年度第7回安城市地域ケア推進会議及び安城市認知症初期集中支援チーム検討委員会

日時 令和4年12月15日(木)

午後1時30分～午後3時

場所 社会福祉会館 3階 会議室

## 1 会長あいさつ

急に寒くなってきたため体調を崩される方が増えている。新型コロナウイルスの感染者も増えているので気を付けていただきたい。

## 2 議題

### (1) 認知症初期集中支援チーム検討委員会(資料1)

- ・ 認知症初期集中支援チーム検討委員会について

事務局：資料1-1に沿って説明)

- ・ 認知症初期集中支援チームの活動報告

認知症初期集中支援チーム：資料1-2に沿って説明)

令和4年4月から11月末までの活動実績について説明。支援開始ケースは、6件あった。把握ルートは、地域包括支援センターから4件で、家族から2件であった。相談内訳として、「私はどこも悪くないから大丈夫です。」とおっしゃる方や、「近所の方が悪さをする。」、「息子が物を盗っていった。」などの理由からキーパーソンの方の関わりがしにくく、支援に入りにくい状況であり、医療サービス・介護サービスを受けていないケースが多い。

全国的にも、認知症初期集中支援チームが関わる中で、対応困難ケースが増えてきており、対応により専門性が必要になっている。

- ・ 検討事項

認知症初期集中支援チーム：資料1-2に沿って説明)

認知症の症状により、本人が支援を受け入れないケースについて、実際行った支援の紹介。認知症支援の専門職であっても、本人、家族の気持ちを尊重できるように悩みながら支援方法を検討してきた。専門職や地域で活動している皆さんにも意見を伺い、今後の支援につなげたい。

### 【意見】

ケアマネット部会)

実際に対応しているケースでも、困難になってからの相談ケースが多いと感じる。このケースでも、もう少し早い段階で相談できると違った支援ができるのではと思うが、早い段階だからこそ、本人への説明や同意、家族の理解や協力がないと介入も難しい場面もある。初期の段階で、ケアマネジャーとしてどのように認知症初期集中支援チームにつなげていけばよいかを知りたい。

認知症初期集中支援チーム)

ケアマネジャーや地域包括支援センターから、相談するタイミングが難しいとよく聞くので、交流を図り、気軽に話ができる機会があるとよいと考えている。そのために、認知症初期集中支援チームが地域に出ていくことや、地域包括支援センターが開催している地域ケア地区会議などに参加させていただいて、地域の関係機関との顔の見える関係を構築していきたい。

訪問看護ネットワーク部会)

どのようなタイミングで介入していくのか大変なケースであるが、正解があるわけでもないし、似たような症例でも同じ結果が得られるとは思えないので、その都度の介入の方法も専門職、多職種で介入して解決していく段階を踏んでいくことが大事。訪問している中で、認知症の方が多くいるが、認知症であることを本人だけではなく、家族も認めない方もいるので、そこをどうやって納得しながら説明できるツールがあれば教えてほしい。

認知症初期集中支援チーム)

認知症初期集中支援チームに直接、相談していただければと思う。

在宅医療サポートセンター)

認知症に対して専門的な知識があるわけではないので、市民から認知症に関して相談があった場合に、認知症初期集中支援チームに相談したい場合があるので、ありがたいと思っている。他の事業所もどこに相談したらよいのかわからない時に、認知症初期集中支援チームを紹介してもよろしいか。

認知症初期集中支援チーム)

紹介をしていただいて、相談していただければと思う。

デイネット部会)

実際にケアマネジャーからの依頼で、困難事例としてデイサービスに相談があるケースもあった。今回のような事例対応も多く、デイサービスを利用していく中で、本人や家族の不安が軽減されて生活環境が改善されるケースもある一方で、そうでないケースもあった。デイサービスは、各事業所が行っている趣味の活動など、いろいろな特徴や持ち味を持っているので、各デイサービスのそのような特徴についての情報ツールがあるとよいと思っている。特にケアマネジャーは、認知症利用者のデイサービス事業所を選ぶ際の事前の調整や準備に役立つのではないか。また、デイネット部会の中でも、各デイサービス事業所の同士の情報を共有して、連携を図っていきたい。

ケアマネット部会)

デイネット部会のお話は心強い。そのような情報があれば、利用者がデイサービスを選ぶうえで、適切な事業所を紹介できると思った。

会長)

今回のように事例を通じて、それぞれの専門職で意見を出し合い、個々の事例に合った良い方法で対応していくことは、より良いものを目指していくためには必要なことである。

認知症初期集中支援チーム)

ご助言ありがとうございました。認知症の患者は、デイサービスに行けたら良いと思うが、サービスにつながらないことも多い。趣味や興味を聞き出しながら、サービスに

つなげるようにしているので、デイネット部会の情報共有について、心強いと思った。

いろいろな関係機関の方と認知症の支援について共有できたので、今後もそれぞれの関係機関と連携して対応していきたい。

## (2) 在宅医療・介護連携推進のための研修会等実施報告（資料2）

### ・施設部会

施設部会：資料2-1に沿って説明)

### ・歯科医師会部会

歯科医師会部会：資料2-2に沿って説明)

### ・地域包括ケアフォーラム

在宅医療サポートセンター：資料2-3に沿って説明)

デイネット部会：ACP作業部会副会長（岡田氏）より報告)

シンポジウムで、施設管理者としてシンポジストとして参加した。各シンポジストは、専門職として関わる中でのACPの必要性について話をした。「わたしノート」を発行して1年弱であり、市民に周知していく必要性を感じている。またアンケートの中で、専門職側としても「わたしノート」を有効に活用できるための声掛けが難しいなどの意見もみられた。実際に、上手に活用されている事例が少ないのが現状である。これから良い活用事例が出てくると思われるので、それを発信して、市民の皆様到我が事として「わたしノート」を利用してもらえるように周知していく必要があると思う。専門職側に対しても「わたしノート」を有効に活用できるように、伝え方について発信をしていく必要もあると思った。ACP作業部会については、来年1月に振り返りを行う予定である。今後もACPに関して協力していきたい。

### 【意見】

#### 施設部会)

施設としてその人らしい生活を支えるために「わたしノート」は、ツールとして有効であるととらえている。当施設では「わたしノート」をアレンジし活用しやすいように施設内で内容を検討している。また、施設部会内でも共有して活用につなげたい。地域でも「わたしノート」の啓発活動を行うなどの動きもあると聞いているので、住民に対して理解が深まるのではないかと思う。

#### デイネット部会)

デイサービスの利用者に対して「わたしノート」の説明を行った。感想としては、まだ、知らない方が多く、興味を持ったが、ノートを目の前にすると、記載する量の多さなどにひいてしまうことがあった。職員からの「わたしノート」説明や案内の伝え方が難しいと感じた。記載項目のなかに将来のことを考えすぎて、逆にネガティブになってしまうので、伝える側である専門職に対して、伝え方のスキルを高めていく必要がある。

## (3) 情報共有

### 病院部会)

病院内での新型コロナウイルス感染状況の説明があった。現状は、感染力が強い状況であり、

4人床で入院している患者のうち1人が感染すると同室者に感染するケースが目立つようになってきている。(安城更生病院)

#### 連絡事項

- ・わたしノートの配布希望について

事務局：資料に沿って説明)

- ・各種報告書の提出期限について

事務局)

令和4年度検討テーマ報告書 (2月24日(金)まで)

令和5年度研修企画案及び検討テーマ(1月27日(金)まで)

- ・在宅医療・介護連携推進のための研修会(訪問看護部会)

日時 令和5年1月12日(木) 午後6時30分～午後7時30分

会場 JAあいち中央 生活館

テーマ 災害時の多職種連携、効果的・効率的な安否確認方法について考える

参加者 訪問看護部会・ケアマネット部会

- ・在宅医療・介護連携推進のための研修会(リハビリネット部会)

日時 令和5年1月27日(金) 午後7時～午後8時

会場 オンライン開催(ZOOM使用)

テーマ リハビリ紹介状を活用した情報連携の在り方の再検討

参加者 リハビリネット部会

- ・自立支援サポート会議

日時：令和5年1月26日(木) 午後2時～ オンライン開催

次回 令和5年2月16日(木) 午後1時30分～3時00分 社会福祉会館 会議室